

科目名		授業形態	担当教員名	
失語症演習Ⅰ（観察、評価）		講義・演習	太田 信子・今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
言語聴覚療法は観察に始まる。録画・録音教材を使用し、失語症の症状観察と分析の方法を学び、レポート作成とその解説によりの確な記述で表現できるようになることを目的とする。また、言語聴覚療法で求められるコミュニケーション援助技術を、グループ演習を通して身につける。				
授業の到達目標				
失語症の特徴的症状を見つけることができるようになる。観察した症状を専門用語と照合できるようになる。個々の特徴から症例の全体像を把握できるようになる。観察・分析した内容を、事実と考察とに区別して記述できるようになる。グループ演習では、コミュニケーション援助者の役割を主体的に実践体験する。演習を通して、自らのコミュニケーション技術を磨く。				
授業計画				
回	内容			
1	いきいきの郷 計画			
2	いきいきの郷 グループ演習（各グループ）※			
3	いきいきの郷 フィードバック1			
4	いきいきの郷フィードバック2			
5	失語症オムニバス ワーク			
6	失語症オムニバスⅠ 呈示			
7	失語症オムニバスⅠ 解説			
8	失語症オムニバスⅡ 呈示			
9	失語症オムニバスⅡ 解説			
10	失語症オムニバスⅢ 呈示			
11	失語症オムニバスⅢ 解説			
12	失語症ケースレポート K. I. 呈示			
13	失語症ケースレポート K. I. 解説			
14	失語症ケースレポート T. H. 呈示			
15	失語症ケースレポート T. H. 解説			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート	90%	各レポートが基準に達しなかった場合は、その都度再提出する。		
小テスト				
平常点				
その他	10%	いきいきの郷グループ演習の計画、練習、実践、振り返りができることを評価基準とする。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準失語症検査マニュアル 改訂第2版		日本高次脳機能障害学会 編	新興医学出版社	
標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版		藤田郁代・立石雅子・菅野倫子 編	医学書院	
脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版		竹内愛子・河内十郎 編	協同医書出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
絵でわかる言語障害 改訂第2版		毛束真知子 編	学研メディカル秀潤社	
自由記載				
備考				
※ 準備及び臨地演習各1回				